

後援会だより

※(内は女子さまの前/学部)

体育会応援22【剣道部】〜親からのメッセージ



しおのや いずみ
塩谷 泉
(匡彬/法学部)

兄が通い始めた剣道教室に付いて行き、道場の隅で遊んでいたのが、匡彬、小学校2年の秋。何の迷いもなく剣道を始めることとなりましたが、週3回の稽古に行くのを嫌がり、女房が苦勞していた時期もありました。しかし、次男坊特有の、兄に負けたくない意識から、強くなりたくて云う欲も芽生え、高学年になり、積極的に稽古に取り組む様になったと思われます。

小学校卒業後、全国大会に出場経験のある浜松高台中学校で剣道を続ける事となりました。監督の野中崇先生の指導を仰ぎ、より一層剣道を好きになると同時に多くの遠征試合を経験させていただき、全国トップクラスの力量を知る貴重な3年間を送る事ができました。親からすると、全国大会に団体・個人の双方で出場できた事で、十分満足していたのですが、本人は納得せず、予選で対戦



して負けた相手、全国制覇を成し遂げた明德義塾へ進学をしたいと打ち明けられました。「日本一になりたい！」と言われ、浜松から700キロの高知への進学を、戸惑いながらも受け入れることとしました。明德義塾剣道部の「大志寮」は、監督の森大樹先生一家が同じ棟で暮らしている環境で、剣道はもちろん、生活面でも厳しく指導していただき、1年の夏の帰省で、自ら食器の

後片付けと洗濯をする姿を見て、充実した高校生活を送っていると確信いたしました。その結果、3年の夏、高校剣道で最大の大会「玉竜旗」で団体優勝、インター杯では個人優勝と、本人の目標であった「日本一」を達成する事ができました。大学の進路については、小学校時代より憧れていた田中達也氏がコーチをしている法政大学を希望しており、「玉竜旗」を観戦されていた大山賢一前監督にお言葉をかけていただき、本当に感激しておりました。法政大学体育会の中で4番目に長い歴史を持つ剣道部は、誇りある伝統と部員の自主性を重んじた活動で、多くの輝かしい実績を残しております。特に近年では、女子部の活躍が目覚ましく、男子は押され気味の感があります。最高学年となった今年、息子は怪我の為、春に行われた個人戦は出場することができませんでした。その悔しさを団体戦にかけ、先般行われた「全日本学生剣道優勝大会」において、猪谷政人新監督の下、部員一丸となって20年ぶり

に決勝に進み、準優勝することができました。剣道は、スポーツではなく武道。技術より礼儀作法を第一に各先生方から叩き込まれてきました。忘れ去られようとしている「日本の心」を剣道に打ち込んだ若者が守っていつてくれる事を大いに期待しております。



右端で声援を送るのが塩谷選手

宮城県支部キャンパス見学バスツアー



宮城県支部支部長
すずき かずゆき
鈴木 和博
(花佳/経営学部)

宮城県支部のキャンパス見学会は2年に一度の開催ですが、今年10月5・6日に開催致しました。前回は2011年の大震災の年に開催されましたが、私は事情により参加できず、今回は初めての参加でしたが、仕事の都合で仙台からのバスツアーには参加できず、小金井キャンパスで合流しました。

まず学生食堂で昼食を取り、できて間もない綺麗なキャンパスをご案内いただきました。特に図書館では、地下の書庫までご案内いただき、蔵書を重要視されている大学の姿勢に大変感銘致しました。

次に向かった宿泊場所でもある多摩キャンパスでは、小雨の降りしきる中、広大なキャンパスをバスでゆつくり移動しながら案内いただきました。規模の大きさに驚きつつも、かなり充実した図書館や本格的なスポーツ施設、新たに組み込まれているIT設備に本学の盤石さと地域との共生を感じることができました。その後、お子さんも交えてめじろ台駅近くのレストランで懇親会を兼ねた夕食を取り、百周年記念館での宿泊となったわけですが、大学施

設と聞き、2段ベッドの合宿所をイメージしていたのに反し、何とホテルではないですか！キッチンに冷蔵庫もついて、大きめのベッド、予想外の立派さに驚きです。おかげさまで閑静な森に囲まれた環境の中、朝までぐっすり休ませていただきました。

二日目は、市ヶ谷キャンパスの見学です。日曜日にもかかわらず、歴史的エピソードを交えながら、発祥の地であるキャンパス内を詳しくご案内いただきました。これから新しく変わっていくであろう市ヶ谷キャンパスに期待が膨らみます。今回は15人の参加で前回よりも少ない人数でしたが、皆さん和気あいあいとしたバスツアーでした。法政大学の父母を大事にして

くれる姿勢に「子供の母校は我が母校」をますます感じる二日間でした。



キャンパスバスツアーと野球観戦



宮崎県支部支部長
くりやま さよこ
栗山 佐代子
(真優/文学部)

仲秋の10月12日、しかしながら夏の甲子園の季節のような陽ざしの日に、東京六大学野球観戦とキャンパスツアーを実施いたしました。

宮崎県支部はオレンジ色の応援Tシャツを着て、神宮球場での対東大戦の試合を観戦いたしました。応援席に座る前から、応援団や後援会の皆さまの気迫ある姿に感動しました。伝統と格式ある応援団や、爽やかな笑顔いっぱいの子アリーダーの皆さまにリードされ、一緒に応援に参加できました。応援団の熱い迫力と選手を信じ応援する力を、肌で感じる事ができました。加えて試合結果も8対0の圧勝で、得点するたびにスクラムを組み校歌を声高らかに歌い、益々気分も高揚いたしました。「野球観戦」は「野球応援」だと体感いたしました。

試合後、おそろいのTシャツを着たまま市ヶ谷キャンパスへ後援会本部の役員と共に移動しキャンパス見学をいたしました。到着後、まずはランドマークのボアソナード・タワーの学食で昼食をいただき、学生気分を味わいました。キャンパス見学では、案内役の女

子学生さんが丁寧でわかりやすい説明をしてくださりました。最初に案内されたボアソナード・タワーの26階からの眺望に感激し、各々カメラや携帯で撮影していました。都心とは思えないような自然に囲まれた素晴らしい環境だと感じました。女子学生さんが、ボアソナード・タワーの高さを体感する場所に案内してくださいましたが、真下からタワーを見上げた瞬間は本当に圧巻でした。外濠校舎や55年館等に多くの施設や設備が完備されており、あらゆる面で学生をサポートしていただけていることを感じました。また田町校舎や小金井キャンパス見学においてもご配慮をいただき感謝いたしております。

今回の参加者は12人でしたが、この経験を支部後援会会員にも報告し、来年はもっと多くの保護者の皆さまと伝統と最先端の大学を体感し、一緒に支援したいと思っております。



佐賀・長崎県支部野球観戦とキャンパス見学



佐賀・長崎県支部支部長
牟田 勇 (光孝ノスポーツ健康学部)

佐賀・長崎県支部では支部発足以来初めてとなる東京六大学野球応援とキャンパス見学を、10月12・13日で実施しました。歴代支部長の思いが達成された日でもありました。

晴天の下、対東京大学の一戦を観戦しました。エール交換から応援団(リーダー部・吹奏楽部・チアリーダー部)の統制のとれた応援には感動しました。また試合が動く中で、グラウンド以上に細かいサインプレーで指示が全ての団員に伝達され、応援している私達に伝え、一体感を持った応援には感心しました。試合はランナーを出すがあと1本が出ない序盤でしたが、中盤の4回、



6回に1点を取り、終盤にダメ押しとなる追加点を入れ8対0完封で勝利致しました。

夜は市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワーで親子懇親会を行いました。広大な夜景をバックに食事を行い、子ども同士の交流もでき、有意義な時間を過ごすことができました。

市ヶ谷キャンパス首都圏父母懇談会ではキャンパスツアーに参加し、薩埵ホールで交響楽団の演奏会でクラシックと校歌、応援歌を聴くことができました。交響楽団で聴いた校歌、応援歌はまた格別なものでありました。今回の参加者は野球観戦が7家族12人、親子懇親会が6家族で子供が4人参加しました。

これを第一歩として、気軽にスポーツ応援などに参加できる環境を整えていきたいと思います。



澄み渡る空気の中に...



山形県支部支部長
寒河江 茂兵衛 (薬ノ理工学部)

去る9月8日(日)に法政大学後援会山形県支部として恒例となっている法政大学アカデミー合唱団の合宿へ激励に訪問する。当日は雨模様のおいにくの天気であったが、標高約900メートルのところにある合宿先へ向かう。登っていくほどに空気がひんやりとしてくるのを感じながら15分程で合宿所に到着。やはり、山の上も小雨模様で、団員に聞くと合宿4日目であるが今年は天気が悪く、ずっとこんな感じとのこと。一日ぐらい天気の良い日に恵まれて、遠くに月山や鳥海山が見られることを願う。練習中であつたため区切りのいいタイミングを待つ練習会場へお邪魔する。アカデミー合唱団は、



毎年蔵王のこのホテルで合宿を行うことが恒例になっており、ホテル側も練習場の部屋は防音壁にするなど、合宿に配慮した造りにしている。入ってすぐに昨年よりも団員の人数が増えているように感じ、聞いてみるとやはり今年1年生の入団者が多く、増えたとのこと何かうれしく思う。山形の残り少ない夏を満喫して、合宿の成果が得られるように頑張つて欲しい旨の話を伝え、持参した今が旬の山形産のぶどうを差し入れて激励する。終わりに合唱団より、お礼の法政大学の校歌の歌声を聴き、練習成果の片鱗を耳にする。小雨模様とは言え、この蔵王のひんやりと澄み渡る空気の中に響き渡る素晴らしい歌声を聴き、その余韻に浸りながら合宿所を後にする。



常任参与・参与との懇談会報告



総務
あいら けいこ
相原 啓子 (経済ノ経営学部)

今年10月3日(木)、後援会から10人の運営委員、大学側からは小川浩幸統括本部長をはじめ9人の常任参与、それに2人の参与に出席をいただき、九段校舎において「常任参与・参与と後援会運営委員との懇談会」を開催しました。

この懇談会の中で、後援会からは、主に「東日本大震災関連」、「学生支援費関連」、「大学の現状」、「今後の大学運営」等に関して、大学側に伺い、現状の取り組みなどを確認しました。

具体的には、震災関連では、東京都帰宅困難者対策条例で義務化された3日分の備蓄品準備が既に完了していること、また、災害時には携帯電話はかかりにくくなるため、緊急電話の設置や事務用電話の貸し出しなど臨時電話の増設をし、緊急時に備えて準備を進めていることなど、現在、各キャンパスでの非常時対策、地震時のマニュアルなどを強化しているとのことでした。

学生支援関連では、就職関連に多くの質問がなされましたが、その中で学生の就職活動に向けての支援については、キャリアセンターでも毎年専門家を招き「優良企業の見分け

方」など企業研究をするともに、他大学との情報交換も行い、学生との個別相談の際には、問題企業については注意を喚起するよう働きかけを行っているとのことでした。

また、今後の大学運営に関しては、グローバル化に対する外国語教育と国際的プログラムの充実を図り、学生の就業力向上によるキャリアに強い法政大学の実現を目指して、各部署において多くの事業を計画しているとのことでした。

今後も学生にとってベストと思われる取り組みについては、大学側としても積極的に進めていくとのことでしたが、今回の懇談会を通して、後援会としても引き続き大学との相互理解のもと、一致協力して、我が法政大学の学生の皆さんのために、少しでも役立つ支援ができるよう、弛まぬ努力・活動、取り組みをしていかなければならないと、改めてその役割の重要性を再認識させていただいた貴重な時間でもありました。



出雲駅伝観戦記

鳥取・島根県支部支部長

かない としひこ
金井 寿彦 (薬ノ理工学部)

秋晴れの出雲路で、全国から選ばれた22チームが出雲大社前をスタートした。沿道は選手応援と60年ぶりの遷宮客とも重なり、熱気に包まれていた。我が法政大学は7年振りの出場。後援会、校友連合会に加えて本学より徳安彰常務理事にお越しいただき、オレンジ色の横断幕のぼり旗・ウィンドブレーカーで沿道を染め、他校に引けを取らない大応援を行った。

強豪ひしめく中、力走し8位入賞を果たした。法政スポーツを愛する人たちは、声かれんばかりの応援を行ない選手との一体感を味わうことができた。

さらに出雲駅伝恒例の、出場者全員を囲んでのサヨナラパーティーでは、選手・後援会・校友連合会全員でステージに上がり法政大学校歌を高らかに歌い切った。最後に、各校の健闘を讃え、法政大学の来年の出場を願って閉会となった。



後援会ウェブサイトのご案内

URL:<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。



「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。



koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp